

鉄骨造ワークショップ・フィールドセッションが開催されました!

2018年度より活動しておりました北海道機械工業会鉄骨部会とJSCA北海道支部による鉄骨協働WGの成果として「鉄骨造ワークショップ(フィールド・セッション)」を11月15日(金)に開催しました。

当日は会員・賛助会員の他、会員以外の構造設計に係る皆さま、22名にご参加いただきました!

フィールド・セッション・・・って、なに?

今回は単なる工場見学ではなく、今後さらに協働を継続するための現地・現物見学と位置づけており、意見交換や相互の情報提供により設計や製作業務をどう合理的に進めるかという意見交換(プレスト・セッション)に繋げることから呼称を変えています。

(何より、単に工場見学では皆さん? 興味が薄れるでしょう・・・?)

支部事務局のある北6条西6丁目設計会館前を14時バスで出発し、石狩市の(株)北川組鉄工所様に向かいました。現地には北海道機械工業会鉄骨部会の鉄骨協働WGメンバーの皆さまもご参加いただきました。鉄骨部会の事務局ご担当様および鉄骨関係業界誌2社の記者も取材参加していただきました。

本工場会議室で工場の概要や一連の技術的な説明に加えて、参加者から事前に寄せられた質問に対する説明・解説をしていただきました。

(事前の質問に対しては工場内で具体の事例で解説もされています)

その後、第1工場に移動し、鋼材の受け入れから切断、孔開けなどの加工を見学しました。本工場に戻り、一連の溶接など製作過程を見学しています。



北川組鉄工所様正門前での集合写真



会議室での説明受講の様子

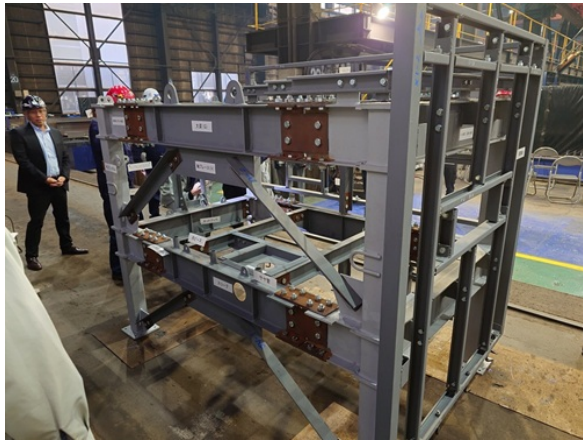


第1工場での鋼材加工を見学

工場内には北川組鉄工所様で独自に作製した、鉄骨架構の縮小サイズモックアップがあり、参加者一同食い入るように各所を確認していました。

今回のフィールドセッションでは北川組鉄工所様のご高配を賜り各種の体験が準備されていました。

まずは第一弾、トルシア形高力ボルトの締め付け体験と同時に、ボルトへの軸力導入試験の体験です。ボルトをセットし一次締め、マーキングしてから二次締め(本締め)を手締めと締め付け機により体験して貰いました。



鉄骨造のモックアップ(良く出来ています！)



トルシア形HTBの締め付け(軸力導入試験)

次に!!!半自動溶接機によるスミ肉溶接を体験させていただき、体験希望の方を代表し2名が体験しています。ビードの綺麗さは〇〇さんに軍配が上がりました。
(スミ肉溶接は意外と難しいです・・・スミ肉溶接のビードが綺麗な工場はしっかりしているとか?)
皆さん、大変感激された様でした。



溶接体験!(皆さん興味津々)



梁端部のハンチ加工の解説
(昔と違いしっかりPLで組み立てています)



ダイヤフラムの間隔は・・・(UTが可能か?)
B.PLの折れ、凹凸の三次元計測の解説



端部のボルトが締められるのか?(実演)

コロナ禍後の久しぶりの見学で大いに盛り上がりました。一方で、働き方改革で工場様にも負担が掛かってしまい、今回の様な行事の実施についてどうするか?今後の課題です・・・

設計会館に帰着し希望者により懇親食事会(意見交換会)を開催。仕事の話は無論のこと多彩な話題で大いに盛り上がりました。参加者相互の意外な縁や繋がりが発覚したり・・・解散後は、三々五々に自宅への帰路や街明かりに消えて行かれました・・・

【報告】JSCA 北海道支部 支部活動活性化委員会 鉄骨協働WG担当:渡邊